

浜学園	4年							
	算数							
学習内容	No.38 和差算・差分算 No.39 分配算・倍数算 No.40 差集算・過不足算 No.41 年れい算・つるかめ算							
家庭学習 ポイント	No.38から文章題の学習に入っています。平常の授業ではテーマごとに〇〇算というのが与えられていますが、公開学力テストなど大きなテストになってくるとそれがありません。問題文を読み、自分で「これは〇〇算で解くと良さそうだ」と見立てができるように、ということ意識して学習を進めたいですね。また、つるかめ算などは割合や速さなど他の単元で、あるいは理科の計算問題などで今後いきなり登場することもあります。解法を身に付けていつでも引き出せるようにしておくとともに、どの解法を用いるのかを文章などから自分で判断できるようにしておくことが大切です。図や表なども自分で書けるように、普段から書く習慣をつけておくことが大切です。 No.40で学習する過不足算ですが、『4個余る』と『6個不足』というように反対言葉になっているものの差を求めるときはひき算ではなくたし算で求める点に注意しましょう。							
課題の把握と解決策	チェック1	それぞれの文章題の「解き方」を習ったとき「一番のポイントは？」を意識していますか？						チェック
	解決策	問題の答え合わせが終わるたびに「ポイントは〇〇」を思い出す習慣を						□
	チェック2	線分図を正しく書けていますか？						チェック
	解決策	問題によって「左端を揃える」「同じ量は上下揃える」など使い分けましょう						□
	チェック3	問題文を読んで「これは何算？」が自分で言えますか？						チェック
	解決策	習っているときに「これは〇〇算だから」と考えず「なぜ〇〇算で解くのか」と考える習慣を						□
	チェック4	計算の練習を日々の学習の中に取り入れていますか？						チェック
	解決策	10分程度でいいので、計算を集中して解く時間をとれるといいですね。						□
	チェック5	毎週の学習単元以外の復習ができていますか？						チェック
	解決策	図形や文章題など、コツコツと復習しておく公開模試の対策になります						□
浜学園	4年							
	国語							
学習内容	No38 詩（2） No39 短歌 No40 俳句 No41 文学史（1）							
家庭学習 ポイント	38回は詩の読解の続きです。詩は内容を短く表現するために、言葉が省略されています。比喩表現に気をつけながら、省略された言葉を補って考えることを意識しましょう。比喩は物語文でもよく使われますね。今回の単元を機会に、表現に慣れておくといいでしょう。詩の学習が終わると、読解は短歌・俳句・文学史が各1回、そして文学史へと続きます。各単元の学習内容を長文読解の中で理解していくことがテーマとなります。「国語のとも」においても短歌・俳句・文学史の単元を学習しますが、知識問題が中心となります。39回では短歌の五・七・五・七・七や俳句の五・七・五のリズムに合わせて声に出して読み、言葉の切れ目を確認して下さい。そして物語文や説明文の学習のように、文に書かれている事実を読み取りましょう。場面を具体的に映像化して考える点は、物語文や詩の文章と同じです。また、作者がどのような効果を狙って表現を工夫しているのかといったことを意識して学習することも大切です。現代では使わない単語も多く出てくるので、その意味を調べたり、植物や昆虫については、その季節も調べたりしておく、今後の学習に役立つでしょう。							
課題の把握と解決策	チェック1	詩の表現技法「比喩」に慣れてきましたか？						チェック
	解決策	何を何に「たとえ」ているかを考えるとよいですね						□
	チェック2	短歌・俳句の読解では「映像化」を使っていますか？						チェック
	解決策	描かれた情景を、映像のようにありありと想像してみましょう。物語文の読解にも活かせる技術です						□
	チェック3	俳句の季語と実際の季節のずれを理解していますか？						チェック
	解決策	季語は旧暦をもとにしているので、五月雨＝夏、七夕＝秋など注意が必要です						□
	チェック4	短歌や俳句を読むとき、季節を感じながら読んでいますか？						チェック
	解決策	季語以外にも季節を感じる手がかりはあります						□
	チェック5	国語の学習において、語彙を増やす大切さを理解していますか？						チェック
	解決策	語彙が増えると読解の精度も上がります。冬休み中もぜひ続けてください						□

浜学園	4年							
	理科							
学習内容	No38 上皿てんびん No39 てこの応用 No40 水溶液の性質 No41 もののとけ方							
家庭学習 ポイント	11月はてこの関連の学習を応用範囲まで、続いて化学分野、水溶液の性質と溶解度計算を学習していきます。てこの単元ではモーメント計算とともに、棒に重さがある問題や、太さが一様でない棒のつりあいも学習します。棒の重さがある問題や、太さが一様でない棒の問題では、重心の位置に矢印で下向きにかかる力を表す矢印を書き、棒の重さを記入して解いていくことが大切です。記入忘れをしないように注意をすることが必要です。てこが水平につり合うためには、「左右のモーメントが等しい」ということと、「上下のつりあいの式が成り立つ」という2点が必要です。まずは、これらの事柄をしっかり認識して、問題に取り組むようにしていきましょう。ものの溶け方では、水温、水量、とける量をいうように整理しながらとくことが大切です。解け残りや結晶の量をもとめるためには、溶解度の表やグラフから、最大どれだけ溶けるのかを確認の上、水量をそろえてから計算をしていくことが大切になります。							
課題の把握と解決策	チェック1	てこの問題では、常にかかる力の向きを表す矢印とかかる力の大きさを書き込んでいますか？						チェック
	解決策	優しい問題でも端折らず書く習慣をつけておくことが大切です						□
	チェック2	てこのモーメント計算が正しくできていますか？						チェック
	解決策	「かかる力の大きさ×支点までの距離」ですね。支点までの距離を見誤るお子さんが多いです						□
	チェック3	水溶液の「定義」を言葉で説明できますか？						チェック
	解決策	透明・こさがどこも均一・時間がたってもとけているものが分離しない ですね						□
	チェック4	溶解度計算では「水の重さ・水温・とけるものの重さ」を書き出していますか？						チェック
	解決策	「書かなくてもできる」と感じる基本問題から書く習慣をつけることこそ重要です						□
	チェック5	溶解度計算で計算ミスを連発していませんか？						チェック
	解決策	一問を解き切るまでの集中を意識して取り組みましょう						□
浜学園	4年							
	社会							
学習内容								
家庭学習 ポイント								
課題の把握と解決策								チェック
								□
								チェック
								□
								チェック
								□
								チェック
								□
								チェック
								□